

## 福岡県環境教育学会第 25 回年会における表彰について

福岡県環境教育学会

### 1 児童・生徒発表者の表彰

本学会では児童・生徒の環境教育的な資質の向上・育成のために、年会において優れた環境教育的実践や研究を行った個人・団体に対して表彰を行っています。運営委員会において表彰審査委員会の報告に基づいて、下記のように決定しました。おめでとうございます。

#### ○優秀賞

##### A 1 「JYOTO SDGs」

発表者：笹田七瑚，新優美香，柳原花音(福岡工業大学附属城東高等学校)

【選考理由】生徒会全体で SDGs 活動を継続的に行っており、内容も多彩で、①地域清掃をする「ラブアースクリーン」は、その活動が地域に密着していることが好ましい。また②校内の「雑がみ回収ボックス」活動は、単なる紙回収から派生して着眼点が細かく、またただ実施するだけでなく、回収後は報告書をまとめ、更なる啓発活動をしている。この振り返りがないと環境活動は継続しないので、大変好ましい。最後の③「アイシティ eco プロジェクト」は、これまでより一歩飛躍して、素材の再資源化のみならず、リサイクル支援活動による障がい者の自立・就労支援活動にまで及んでいる。そして何より彼らが、この活動を楽しみながら気軽に行い、社会活動としている点は優秀賞に値する。

#### ○奨励賞

##### P 3 「ザルツマン試薬の保存期間と温度に関する研究」

発表者：浦部簾，秋吉祐，小田海方(福岡県立柏陵高等学校)

【選考理由】二酸化窒素の測定の試薬としてザルツマン試薬が使用されているが、通常、一日で廃棄される。発表者たちは、顧問の教員から多量に残っているにも関わらず、廃棄することを余儀なくされていたことに疑問を持ち、自ら、保存方法を実験にて考案していった。結果として、保存温度にかかわらず、1 週間程度であれば、問題なく利用できることを突き止めた。通説に疑問を抱き、様々な実験を通して、結果を導き出した点は高く評価される。ロス問題の解決の一步である。

#### ○奨励賞

##### P 6 「油山における登山客の増員を目的としたトレイルランニングコースの設置」

発表者：奥悠耶(福岡県立柏陵高等学校)

【選考理由】油山は福岡市民にとって、自然の中での活動や登山などを楽しむ場所としてなじみの深い山である。油山では「油山市民の森」を核として散策路や登山道が整備され、様々なアクティビティも開催されている。この研究では、油山で新たにトレイルランニングのコースを設計した。発表者は、その過程で行政や施設の担当者などと意見交換し、コースを修正して安全を確認したうえで公開した。世界的に知られるようになったトレイルランニングを、様々なステークホルダーとの交渉を経て油山に取り入れ、コースをより良くしようとした努力が奨励賞に値する。

## 2 年会実行委員会発表賞

年会実行委員会では、一般講演の全発表の中から、とくに優れたものに対して「発表賞」の授与を行っています。今回は“若手の活躍”も視点の1つに加えて選考しました。

### ○発表賞

A2 「北九大における『食』から学ぼうプロジェクトの過去と現在」

発表者：馬場明香里，三宅博之(北九州市立大学)

【選考理由】コロナ前から行われているこのプロジェクトは、大学生があまり体験しない「食」の実体験を含んでおり、地域に出て子ども食堂体験にまで及んでいる。また、その後の大豆ミートや高血圧予防など、コロナ禍にありながら、できることを模索し、これまでのどの発表にもない観点が稀有である。

### ○発表賞

B2 「重金属廃液を浄化するためのゼリー状材料の開発および環境教育」

発表者：福地彩夏<sup>1)</sup>，久保萌花<sup>2)</sup>，松尾紗絵子<sup>1)</sup>，中原日向<sup>1)</sup>，森元悠真<sup>1)</sup>，西田哲明<sup>3)</sup>，岡伸人<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>近畿大学大学院，<sup>2)</sup>近畿大学，<sup>3)</sup>環境材料研究所

【選考理由】PAMPS ハイドロゲルを用いた連続式浄化法によって、Ni めっき廃液の Ni 濃度(8.8mg/L)を神奈川県甲水域排水基準(0.3mg/L)以下に下げることができることを示した。この方法は、比較的簡単な設備と低いエネルギーコストで稼働させることができるため、途上国において導入しやすい技術になりえるという。また、海水の淡水化にも応用でき、エネルギー消費の大きい現行の方法にとって替わる可能性を持っている。さらに、この研究は、大学生に対する環境教育上の効果も検証されており、環境の保全と環境教育に高い貢献が期待される点が受賞に値する。

### ○発表賞

P11 「酸化バナジウムを主成分とするガラスによる Li イオン電池用正極活用物質の開発」

発表者：森元悠真<sup>1)</sup>，松迫駿介<sup>1)</sup>，松尾紗絵子<sup>1)</sup>，福地彩夏<sup>1)</sup>，中原日向<sup>1)</sup>，春田正和<sup>2)</sup>，西田哲明<sup>3)</sup>，岡伸人<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>近畿大学大学院，<sup>2)</sup>近畿大学，<sup>3)</sup>環境材料研究所

【選考理由】リチウムイオン電池は二酸化炭素を排出しない電気自動車の蓄電池であると同時に、発電量が気象条件に左右される太陽光発電や風力発電の安定供給のための蓄電システムとしても有望視される。本発表では、Li イオン電池の高容量化を目的に行なわれた素材開発実験で有力な結果が得られたことが報告された。専門性の高い内容であるが、素人にも分かり易い丁寧な説明であり、何よりも若年層が環境問題に正面から取り組んでいることに好感がもてた。院生諸君の一層の活躍を望むものである。